

海・港と共に歩む

国際港湾都市

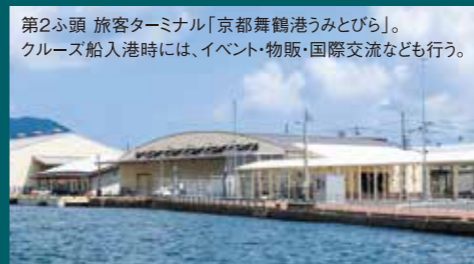


舞鶴

関西経済圏日本海側のゲートウェイ、京都舞鶴港。国内外の客船や貨物船が寄港・就航しており、「海の万博」と呼ばれる大阪・関西万博の玄関口としても期待される。国際港湾都市・舞鶴の観光振興や、港湾・交通インフラに着目し、現地を巡った。



第2ふ頭に停泊するクルーズ船「コスタ・セレーナ」



第2ふ頭 旅客ターミナル「京都舞鶴うみとびら」。クルーズ船入港時には、イベント・物販・国際交流なども行う。



明智光秀の盟友、細川藤孝(幽斎)が築城した「田辺城の城跡(舞鶴公園)」。別名、舞鶴城。

港〈みなとオアシス〉



毎年10月、大野辺緑地の周辺で開かれるベイサイドフェスタ。遊覧船やキッチンカーが人気！

第3ふ頭の南側に位置する「大野辺緑地」。海上保安庁の巡視船や、第2ふ頭の旅客ターミナルを眺めることができる。



「みなとオアシス京都舞鶴うみとびら」の構成施設

万博を契機に
北の玄関口として
さらなる発展を目指す

天然の良港として古来、海と共に歴史を刻んできた舞鶴。西港を有する西地区と、東港を有する東地区があり、それぞれ歴史・文化的背景が特徴的だ。城下町・商港として

栄えた西地区には、国内外のクルーズ船が入港する第2ふ頭や、海外コンテナ航路が就航する舞鶴国際ふ頭などがある。明治時代に海軍鎮守府が設置された東地区では、今も海上自衛隊などが日本海を守り、前島ふ頭には、新日本海フェリーの北海道(小樽)航路が毎日運航する。その北側の大浦地区には、シベリア抑留・引き揚げの歴史を伝え、平和の尊さを発信する舞鶴引揚記念館が建つ。

クルーズ船入港は、2017年に過去最高の39回を数え、入港による舞鶴港訪問客数は2019年に8万8000人を記録。コロナ禍で入港がゼロに落ち込んだが、2024年は入港12回に回復。舞鶴市は、2025年の大阪・関西万博に向け、アジアからのフェリークルーズ誘致を目指している。舞鶴および京都府北部エリアと万博を一体的に楽しんでもらうのが目的だ。

また舞鶴市は2022年、「みなと」を核としたまちづくり「みなとオアシス」(国土交通省登録制度)に全国156カ所目として登録。地域住民とクルーズ旅客等の交流・拠点として、第2ふ頭の旅客ターミナル「京都舞鶴港うみとびら」を玄関口とし、西地区に点在する観光施設等への誘導をねらう。



海上保安庁の船舶(西港第3ふ頭)



舞鶴国際ふ頭

「海の万博」への思いを込めて「舞鶴を形造った海の物語」を設定



舞鶴市産業振興部
みなと振興・国際交流課
課長
中山 隆司さん

国際港湾都市・舞鶴の魅力をアピールするため、大阪・関西万博に向け、三つの物語を設定しました。一つ目は、舞鶴湾口部で発掘された古代船や、江戸時代の北前船が示す「海の玄関口」としての物語。二つ目は、海軍鎮守府と共に歩んだ、近代都市としての発展の物語。三つ目は、戦後66万人の引揚者を迎えた「引き揚げのまち・舞鶴」として平和を祈念する物語。万博の関西パビリオン(京都ブース)では、引揚記念館の世界記憶遺産登録資料、若い世代による語り部活動などの継承事業や、抑留地ウズベキスタンとの交流などについて、ICTを用いて「世界へ、未来へ」発信する予定です。万博を契機として、人流を創出し、閉会後のレガシー形成にも取り組んでいきます。



中山隆司課長(右)と池田好宏係長(左)



古い雰囲気を残し、映画やドラマのロケ地となっている一角。



大人気の舞鶴赤れんがパーク。旧・海軍時代に魚雷・小銃などが保管された赤れんが倉庫が現存し、博物館や物販店等としてリユースされている。



標高301mに建つ五老スカイタワー。



五老スカイタワーから望む舞鶴湾。



「近畿百景第一位」に選ばれた眺望が楽しめる。

展望

近代化遺産



れんがを専門とする世界で唯一の博物館「舞鶴市立 赤れんが博物館」。

インフラ整備された天然の良港 BCP対策に適した舞鶴

湾口わずか約700m、舞鶴湾内の戸島と周囲の山々が波風を遮断し、地震発生時の津波にも強い京都舞鶴港。大きな川の流入がなく、浚渫は不要、太平洋岸なら1〜2mある干満差が30cm以下で、安定した航行や荷役が可能だ。初めて訪れた人は、防波堤が不要の港を見て「こんなに海面が近い！波静かで湖のようだ」と驚くとか。

前述のふ頭のほか、主に木材を扱う喜多ふ頭、多様な貨物船が寄港する第4ふ頭などがある。舞鶴国際ふ頭では、国の直轄事業として第2バースの整備が進み、2021年度から京都府によるII期整備も始まっている。また、2014年度に舞鶴若狭自動車道、翌年度に京都縦貫自動車道が全線開通し、京阪神・中京圏までのアクセスが潤滑化。舞鶴市内では2023年に、国道175号と並行する臨港道路和田下福井線「海舞鶴みなと橋」が開通し、ふ頭間の連絡がスムーズになるとともに、交通分散による渋滞緩和にもつながった。

こうした点から、BCP（事業継続計画）対策に向けた京都舞鶴港の優位性・役割は大きくなっている。舞鶴市では、京都府北部・兵庫県丹波エリアを中心に、企業に向けて、災害時のサプライチェーン寸断など物流への影響を防ぐ手段として、舞鶴港活用の実績づくりを呼び掛ける。「非常時に向け、複数の物流ルートを確認していただくことが大事。まず一度、平常時に使ってもらいたい」と中山課長は話している。

景観・歴史遺産にも恵まれた 観光地・舞鶴の新たな魅力

風光明媚な景色が広がり、平和を祈る引揚記念館や、多様な船舶、近代化遺産の建築・構造物、古い城跡などが見学でき、新鮮な魚介や旨味たっぷりの干物も入手できる。舞鶴は観光資源の豊富なまちで、クルーズ船の乗客も大型バスやタクシーなどを用い、各スポット巡りを楽しんでいる。とりわけ人気なのは、洒落た雑貨や土産、映画ロケ地の散策、海軍カレーも味わえる舞鶴赤れんがパーク。ボードウォークや遊覧船の乗船券売り場が開設されるなど整備が進み、今後さらに快適さがアップしそうだ。

近年の注目は、西港の第3ふ頭をメイン会場にした大型音楽イベント「MAIZURU PLAYBACK FES」。地元有志による実行委員会の主催で2023年から春に実施されており、2024年は2日間で2万5000人を動員した。有名アーティストが複数出演し、観客用のキャンプエリアも用意されている。

観光の広域連携も進む。舞鶴市と福井県高浜町にまたがる、日露戦争時の「吉坂堡壘砲台」に注目し、両自治体の連携イベントや周遊ルートづくりを協議している。また、日本海に臨む京都北部の5市2町が連携し、国際競争力の高い「海の京都」観光圏づくりが進行中。多角的な取り組みに期待感が広がる。

MAIZURU PLAYBACK FES

万博開催中の2025年春に3回目フェス開催を検討中。



舞鶴にはトンネル、橋脚など多様な赤れんが構造物が残る。



登録有形文化財（文化庁）のプレート。



軍用引き込み線として明治時代に設けられた北吸トンネル。

海軍鎮守府

明治34年（1901年）、第4海軍区
の海軍鎮守府が開庁。名高い東郷平
八郎（写真）が初代司令長官を務め
た。舞鶴は軍港都市、造船のまちと
して歩み、現在も海上自衛隊や海上保
安庁が海を守
ると共に、造船
業が海事産業
を支えている。



日本海の守り

「海軍ゆかりの港めぐり遊覧船」から、護衛艦をはじめとする海上自衛隊の艦艇が間近に見え大迫力！